

「仙台防災枠組」の中間評価を 報告―国連ハイレベル会合

5月18日から2日間にわたり、米国・ニューヨーク市の国連本部で「仙台防災枠組2015―2030」の進捗状況の中間評価を話し合うハイレベル(首脳級)会合が開催され、郡市長が出席しました。「仙台防災枠組」は、平成27年に仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で採択された、世界的な防災の取り組み指針で、災害による死者数や被災者数の削減など、2030年までに世界が目指す7つの目標を設定しています。初日の本会議では、途上国支援強化の重要性などを掲げた「政治宣言」が採択され、各国での取



▲中間評価の結果や防災・減災の取り組みを報告した郡市長(写真右上演壇中央)

組みの加速を確認しました。

郡市長は、2日目に行われた分科会に登壇し、地方自治体としては初めてとなる中間評価を東北大学災害科学国際研究所と共同で実施したことを報告。震災遺構などを活用した防災教育を進めていることや、「仙台防災未来フォーラム」を毎年開催し、市民や企業と連携を深めていることなどを紹介し、「防災・減災に終わりはない。ともに協力し、2030年に向けて取り組みを進めていきたいと思います」と呼び掛けました。

市では、今後も仙台防災枠組の採択都市として、防災・減災に向けた取り組みを推進していきます。

市政トピックス

活気ふたたび―仙台・青葉まつり4年ぶりの通常開催

仙台の初夏の風物詩「仙台・青葉まつり」が、5月20日・21日に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から中止や規模縮小を余儀なくされてきましたが、39回目を迎える今回は、4年ぶりとなる通常規模での開催。約87万人が、本格



▲全長2.2キロメートルにも及ぶ時代絵巻巡行

市政トピックス

全国都市緑化祭が開催されました

都市緑化の推進を図り、緑豊かな潤いのあるまちづくりを目的に開かれている全国都市緑化祭。今年度は本市で開催された「全国都市緑化仙台フェア」の中心行事として、5月24日に仙台国際センターで行われました。

式典では、フェアで催された「庭園出展コンテスト」の国土交通大臣賞受賞者や都市緑化の推進に貢献した企業等への表彰が行われたほか、上杉山通小学校の児童6人が登壇し、かけがえのない緑を未来へとつないでいくことを宣言しました。その後、フェアメイン会場で、記念植樹を行いました。式典には、佳子内親王殿下にもご臨席いただき、お言葉を賜ったほか、記念植樹においては、小学生とご一緒にイエベニシダレザクラをお手植えになりました。



▲植樹を行う佳子内親王殿下(右)と、上杉山通小学校6年生の平泉愛奈さん(左手前)、金澤達成さん(左奥)

市政トピックス

杜の都をランナーが駆け抜ける―仙台国際ハーフマラソン

仙台国際ハーフマラソンが6月4日に開催され、約8千人の選手たちが、緑深まる定禅寺通などを力走しました。

本大会には、招待選手として東京オリンピック女子マラソン8位の山麻緒選手や、川内優輝選手など、名だたる選手が参加しました。また、スペシャルアンバサダーとして、シドニーオリンピック金メダリストの高橋尚子さんが参加し、一般出場者と伴走。フィニッシュする出場者をハイタッチで迎えるなど大会を盛り上げました。

沿道では、「とっておきの音楽祭」のステージが設けられ、音楽祭の参加者がランナーを応援したほか、訪れた人たちが途切れない声援を送りました。



▲晴天に恵まれた当日は、選手たちが沿道からの声援を受けながら、爽やかな仙台のまちを駆け抜けました

市政トピックス

58年の歴史に幕―市議会本会議場閉場セレモニー

市役所本庁舎と併せて建て替えるの準備が進められている市議会議事堂。7月から議会議場機能が本庁舎へ仮移転することに伴い、第2回定例会をもって役目を終えた現議事堂で、6月9日、閉場セレモニーが行われました。

セレモニーでは、仙台フィルハーモニー管弦楽団が「青葉城恋唄」などを演奏し、議事堂は優しい音色に包まれました。その後、議長と市長によるあいさつが行われ、郡市長は「それぞれの時代において、数十年先を見据えた責任ある議論が積み重ねられ、築き上げられた議事堂の歴史は本市の歩みそのものです」と話し、これまでの歴史に敬意を表しました。

現議事堂は、現本庁舎と同じ昭和40年10月に完成。9月より解体工事に着手し、建て替え後は新本庁舎の14・15階に設置予定です。

3.11 震災文庫を 読む

「あの時、子どもだった私たちが伝えたいこと―子どもの視点で伝える震災漫画(全3巻)」



著者 3.11 震災文庫 3.11 震災文庫 3.11 震災文庫

東日本大震災当時、小学生から高校生だった6人の子どもの体験に基づいて描かれた漫画です。震災後9日目に80歳の祖母と一緒に救出された高校生、指定避難所で津波に遭った小学生の話など、丁寧な取材を基に、それぞれの思いに寄り添って、描かれています。

これからの子どもたちへの伝承を考えた時、分かりやすい絵と簡潔な言葉で情報を伝えてくれる漫画は、心に響く伝え方の一つだと思えます。昨年3月には旧野蒜小学校(現在は防災体験型宿泊施設「キボツチャ」)前に、井上先生の漫画で描かれた震災伝承看板が作られました。未来につながる新しい伝承のカタチとして、ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思えます。

東日本大震災を語り継ぐための市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」。

未来に伝えていくために
仙台市社会学級研究会顧問、防災士 若生 彩



著者 浅野富美枝 著 生活思想社

今の社会は「良くしよう」と努力してきた人々たちのおかげであることや、自分ごととして防災・減災・復興に関わることの大切さに気付かせてくれる本です。ジェンダーイコールに向けて行動する女性たちの熱い思いに、たくさん学びと気付きをもらえます。仙台防災枠組2015―2030にも「女性と若者のリーダーシップの促進」が必要とされていることが、仙台地域防災リーダーに占める女性の割合は、まだ3割に至っていません。超高齢社会・社会のデジタル化が進む中で、これからの地域防災について考えながら再読しました。

巻末の、戦後から続く年表には災害と社会、女性たちの歩みがかかれていて興味深いです。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 市民図書館 261・1585